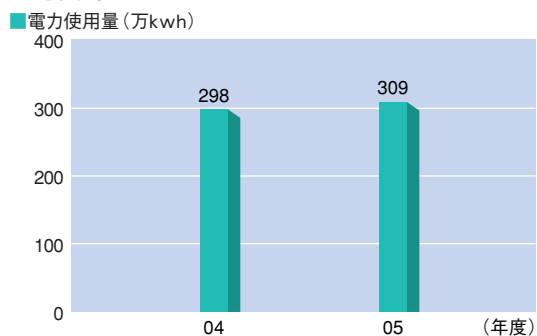


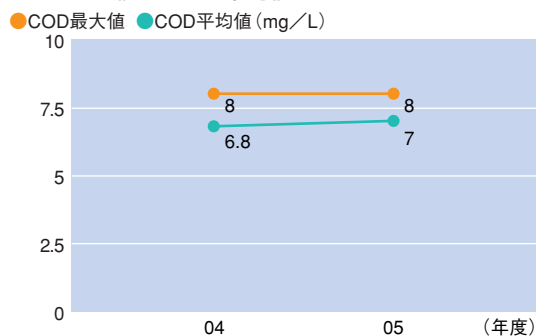
生産事業所の環境関連データ・負荷削減への取り組み

筑波事業所

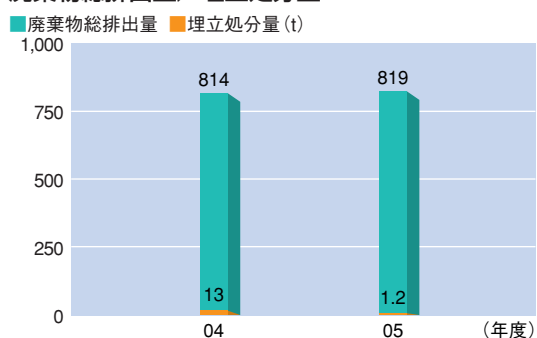
電力使用量



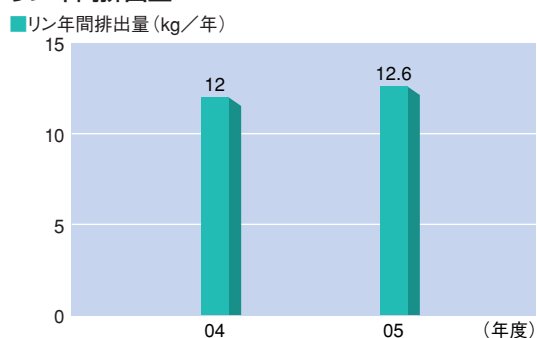
COD最大値／COD平均値



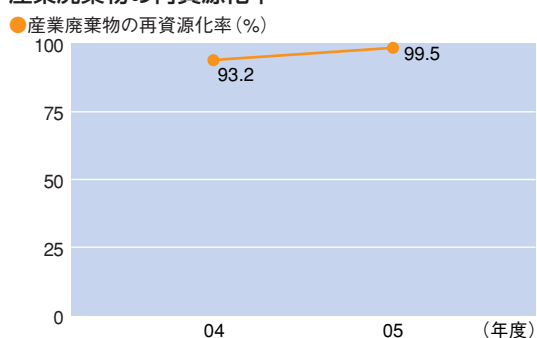
廃棄物総排出量／埋立処分量



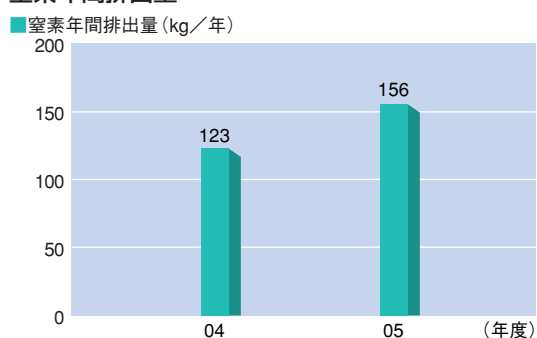
リン年間排出量



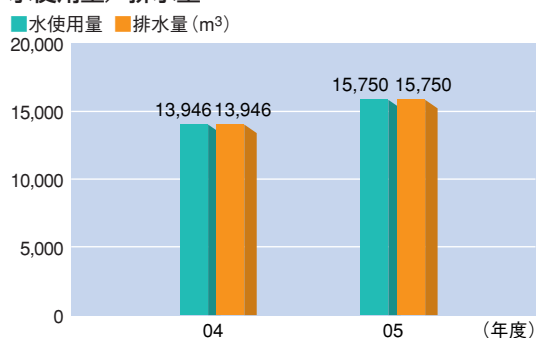
産業廃棄物の再資源化率



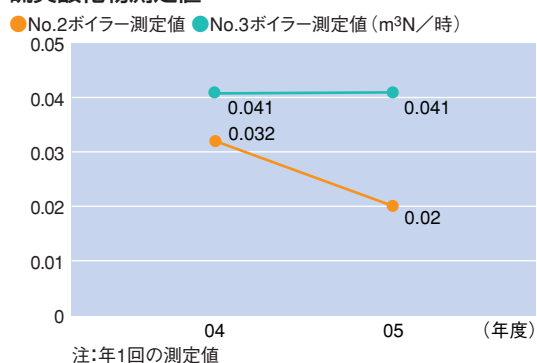
窒素年間排出量



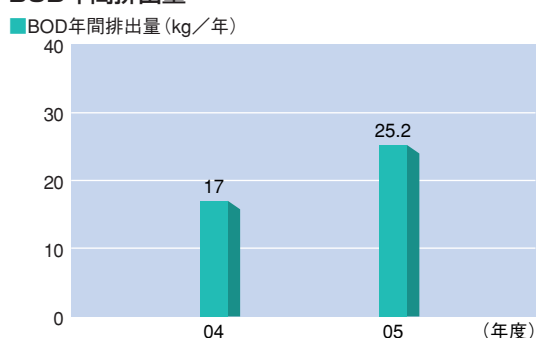
水使用量／排水量



硫黄酸化物測定値



BOD年間排出量



生産事業所の環境関連データ・負荷削減への取り組み

筑波事業所

省エネルギー活動

定時内の年間電力使用量を2006年3月末までに、2001年度実績に対し10%削減するという目標*を掲げ省エネ活動に取り組みました。2005年度は、2004年度に引き続き、空調の温度設定を管理し、さらに水冷却装置を外部空調機に導入し、空調機器への負荷を低減させ電力の浪費を防ぐなど、日常レベルでの省エネ活動に励みました。その結果、167万kWhとなり、2001年度比13.3%削減を達成しました。

2005年度の電力使用量は309万kWhにまで削減され、2001年度実績に対し7.7%削減と、見込みどおりの結果でした。今後も目標達成に向けて活動を継続していきます。なお、2004年度の電力使用量は298万kWhで2005年度は309万kWhとやや増加しました。2005年の厳冬の結果、2004年度より暖房が多くなったことによると推定しています。

*管理対象範囲における目標です。

廃棄物削減の取り組み

2003年度に引き続き、廃棄物の分別を40種の小分類で細かく行ってきました。

また、2004年度に引き続き2005年度も、食堂から排出される生ごみの堆肥化をめざし、コンポストによる堆肥化を実施しています。昨年度の失敗を踏まえて、残渣が少なくなるように生ゴミを選別して堆肥化するようにしました。前回よりは堆肥の姿に近づいていますが未だ充分ではありません。今後も生ごみのリサイクルに継続して取り組んでいきます。

また、当事業所から排出される産業廃棄物の埋め立て処分量を、2005年3月末には1.7%まで削減しましたが、さらに2006年3月末までに、総排出量の1%以下にするという目標を掲げ、分別廃棄の徹底や、再資源化率の高い業者に処理を委託するよう努めました。特に、金属とプラスチックが一緒になった金属複合物及びプラスチックについて再資源化率のアップを図りました。

その結果、埋め立て率*を、2006年3月末には0.7%まで削減できました。今後も、この活動を維持し、埋め立て率を1%以下にしていきます。

*埋め立て率

埋め立て処分量(重量)÷産業廃棄物総排出量(重量)×100

PRTR法対象物質使用量削減

2004年度に引き続き、2005年度の事業活動(開発技術センターを除く)におけるPRTR法対象物質総使用量を、2003年度比20%削減という目標を立て、削減に取り組みました。事業所内でPRTR対象物質を含む物品について、用途及び使用量について調査し、使用量の多いものに関してはPRTR対象物質を含まない物品への代替を図りました。また機能上、代替できない物品については使用量の削減に努めた結果、2003年のPRTR法対象物質使用量46.6kgに対し、最終的には2005年度は13.7kgと70%削減し、目標を達成しました。

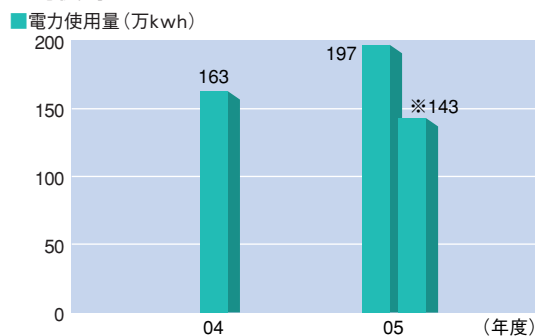
<使用量削減・代替の一例>

- ・塗料⇒トルエンを含まない塗料に変更
- ・洗浄剤⇒洗浄力が維持できることを確認した後、洗浄液を薄めて使用

生産事業所の環境関連データ・負荷削減への取り組み

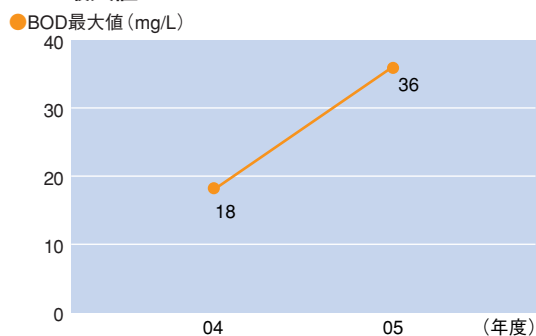
霞ヶ浦事業所

電力使用量

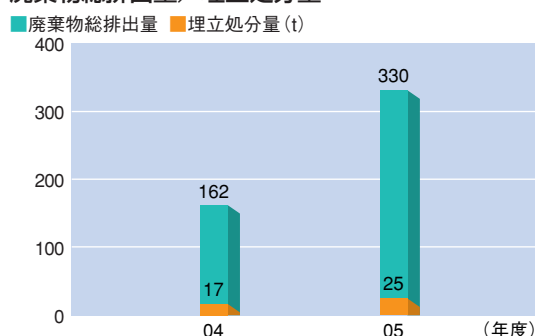


※2005年に霞ヶ浦事業所に転入したリサイクルセンター及び開発の部署の使用量を除き、2004年度までと同様の集計範囲の数値

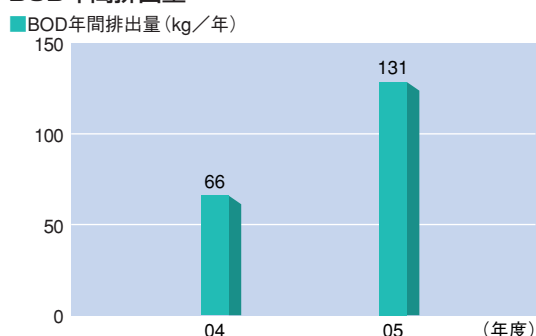
BOD最大値



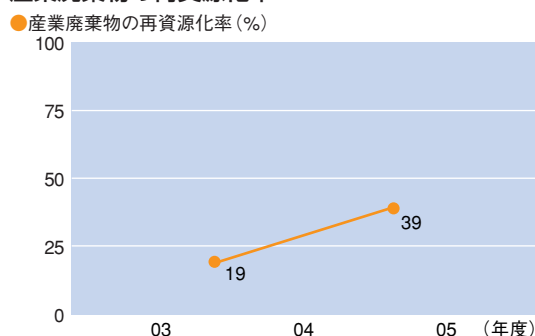
廃棄物総排出量／埋処分量



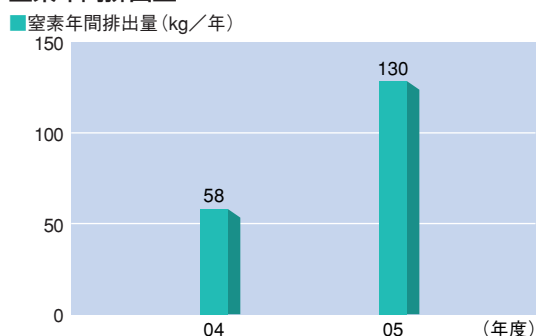
BOD年間排出量



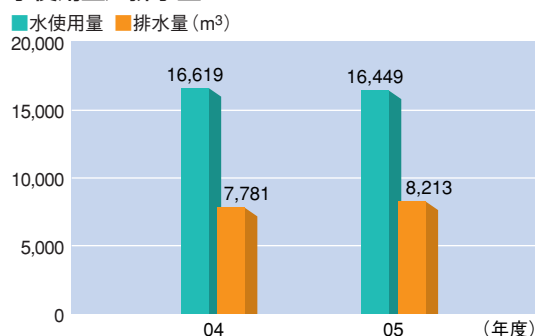
産業廃棄物の再資源化率



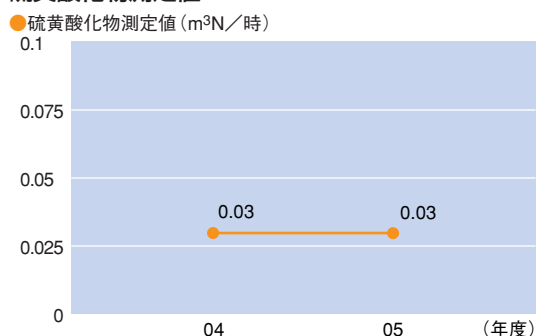
窒素年間排出量



水使用量／排水量

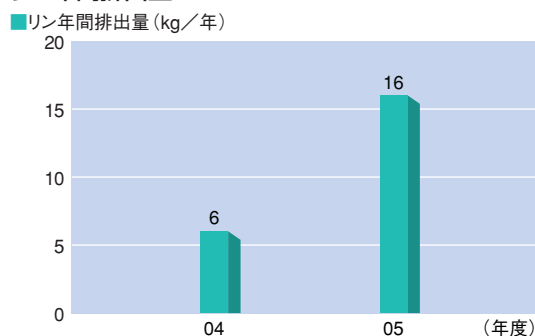


硫黄酸化物測定値



注：年1回の測定値 数値はNo.1～4ボイラーの値

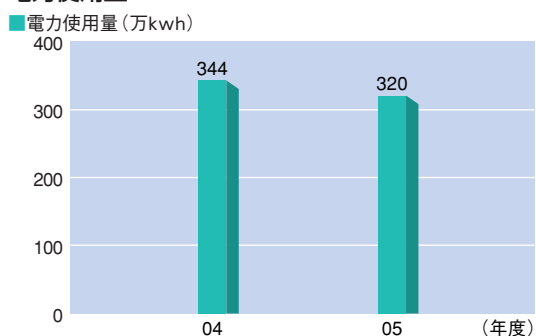
リン年間排出量



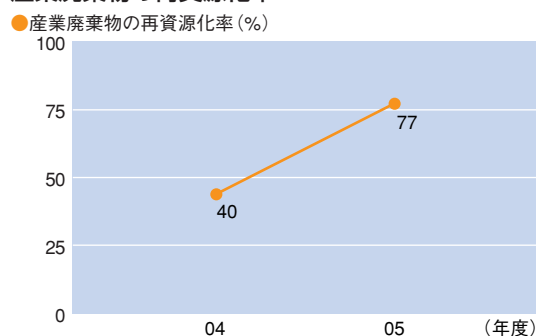
生産事業所の環境関連データ・負荷削減への取り組み

宇部事業所

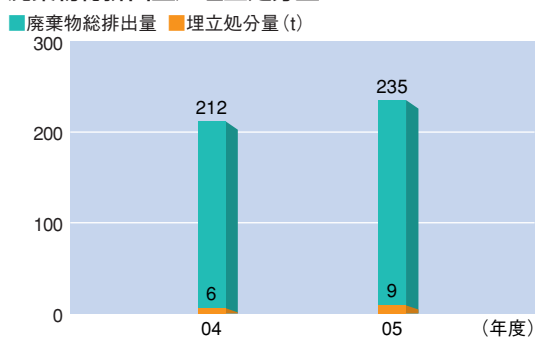
電力使用量



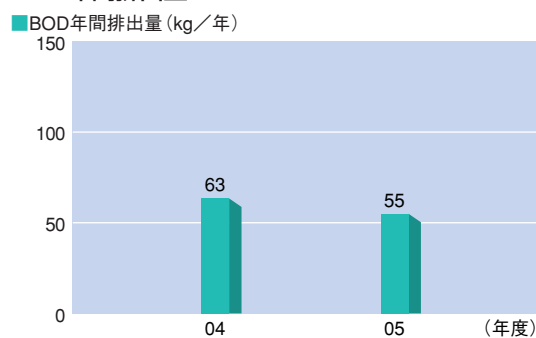
産業廃棄物の再資源化率



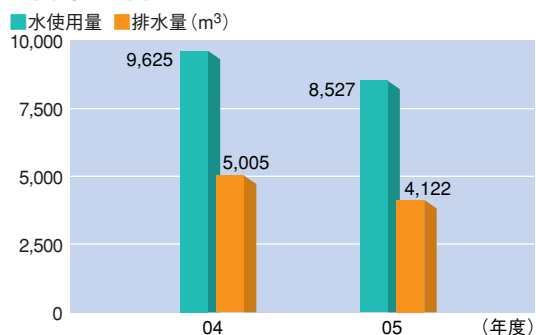
廃棄物総排出量／埋立処分量



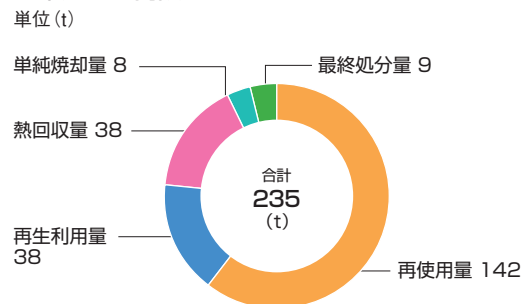
BOD年間排出量



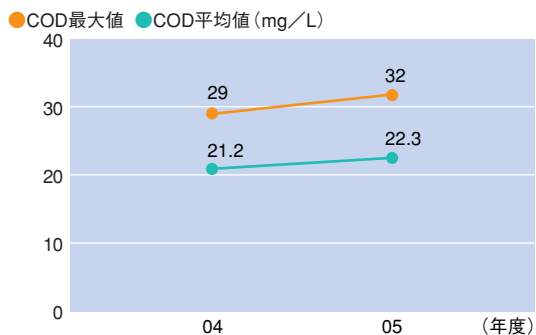
水使用量／排水量



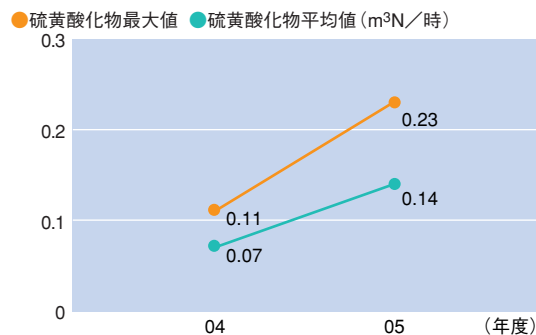
廃棄処理の内訳



COD最大値／COD平均値



硫黄酸化物最大値／平均値



生産事業所の環境関連データ・負荷削減への取り組み

霞ヶ浦事業所

省エネルギー活動

工場の西側に面する窓に断熱フィルムを貼ることにより、空調機器の負荷を低減したり、外部との出入り口である扉の箇所にカーテンを取り付け、室内の冷暖房の効率をアップさせるなどを行って、電力使用量削減に取り組みました。これらの取り組みにより2004年度比約12%の電力使用が削減できたものと推定しました。しかしながら、2005年度にリサイクルセンターの事務所が移転してきたことにより、年間合計では2004年度比21%増加の197万kWhとなりました。

水資源の有効利用（漏水対策）

メーターによる水使用量の監視を強化しています。異常値を示した場合、漏水箇所の早期発見、復旧により漏水量を少なくするようにしています。

宇部事業所

省エネルギー活動

宇部事業所では、インクとマスターの生産工場それぞれで2003年度から2006年3月末までに、単位生産量あたりの電力使用量を2002年度比で10%削減することを目標としていました。

2005年度は、2004年度までの継続と、空調機、コンプレッサーのさらなる改善、照明設備の省エネタイプ更新など、省エネ活動を推進してきました。具体的にはマスター工場空調機に関して、制御システムと吸気ダクトの改修、運転方式の見直しで約119,000kWh/年の省電力を、照明設備の更新では31,000kWh/年の省電力を見込んでいます。

2005年度の電力使用量は320万kWhにまで削減され、2004年度実績に対し7%削減することができました。

2003年度より開始したプログラムの達成目標に対しては、母数となる2005年度の生産数量が落ち込んだこと、猛暑と厳冬による空調機の使用が増えたことにより、2002年度に対してインク側4.3%、マスター側6.9%削減に留まりました。ただし、電力使用量実績として2002年度より40万kWhの削減ができました。

2006年度より新たなプログラムをスタートさせ、省エネ活動を推進してまいります。